# 一品を利用者様が作ろう~調理を通じて「できる事」を見つけよう~

社会福祉法人 サン・ビジョン グループホーム 第2グレイスフル辰野

発表者:田中 清子



#### 事業所紹介

●当グループホームは長野県上伊那郡 辰野町にあり、1ユニット9名の2 ユニット合計 18名の利用者様が 生活されています。

豊かな自然に恵まれた地域にあり、 家庭的な居心地の良い環境づくり、 法人・ホーム理念のもとに日々利用 者様と関わり生活のサポートをして います。

#### 【取り組む課題】

●昨年よりコロナ禍で屋外の活動が制限された。職員の中で感染対策として外へなる べく出ず、施設内で過ごしてもらおうと言う思いが強く、活動量が減った事で一部の 利用者様に意欲低下が見られるようになっ ている。そこで一日の生活の中で多くの時間を費やす「食事作り」に着目。

個々にできる事を見つけ、やりがいを持ち、 活き活きと生活して頂くため、課題として 取り上げた。

#### 【現状把握】

- ・固定の利用者様にのみ調理を行なって頂いている。テーブルに伏せている方の中でも「やりたい気持ち」はあるが、職員に伝えられない。
- ・味見も職員が行なってしまい、利用者様の好みに合っていない。
- 「料理を時間内に作らないといけない」という思いが強く職員が主体となっている。
- ・火傷、怪我の危険性を考えてしまい、調理参加をして頂けていない。



# 調理に参加できな

61

### 【要因解析】



食材の切り方が分からない

自分にはでき ないと思う

何をしていいか 分からない 誘ってもらえない

やりたいけど、 職員に伝えら れない

特定の利用者様にしか 声をかけない

時間に追われている。

自分でやった方が早い と思っている 職員の意識が不十分

包丁で手を切ったり、 火傷が心配

> 「できない」との 思い込みが強い

他の職員もやっていないから自分も 誘わない

職員

#### 【具体的な取り組み】

- 各居室担当を中心に、利用者様の「できること、やりたいこと」を見つけ出す。
- ・味見当番表を作成し、利用者様に味付け、 味見を行なって頂く。
- ・食事作りの主体は職員ではなく、利用者様である事を認識し、調理の呼びかけや分担した作業がトラブルなく提供できるように見守りを行なう。

#### 【活動の成果と評価(職員)】

- ・固定の利用者様だけに参加して頂くのではなく、声かけの工夫をする事で今まで「できない」と決めつけてしまっていた事でも参加して頂けた事で「できる事」を見つけ出す事ができた。
- ・職員同士が話し合い情報を共有する事で調理 工程のどの部分をどの利用者様ができるのか、 得意分野を見つける事も出来ている。
- ・調理工程を細分化し、工程を分ける事で多くの利用者様に参加して頂け、時間短縮にも繋げられた。

#### 【活動の成果と評価(利用者様)】

- ・以前はテーブルに伏せていた利用者様から「私も調理に参加したい」という声が聞かれるようになった。
- ・味見でも細かい意見を聞く事ができ、昔 懐かしい味に近付ける事ができた。
- ・調理に参加した事で昔の調理方法を聞き出せ、回想法にも繋げられた。
- 調理工程の一部作業内容によっては指先の運動にも繋げる事ができた。

#### 以前の調理風景



職員が中心。

奥には伏せて寝ている利用者様やぼーっとしている姿が見られる・・・

## 現在の調理風景



テーブルで下拵え



立っての盛り付け

#### 【今後の課題】

- ・1品を利用者様が作る事を目標に挙げていたが、利用者様のみで作り上げる事ができなかった。しかし、調理を通じてできる事を見つけ出す事ができた。
- 利用者様が毎日、調理に参加して頂けるように声掛けの工夫、環境を整えていく。
- ・職員の意識で「できない」と決めつけず、 利用者様の残存機能を活かせるようにする。

# ご清聴ありがとうございました

